

夢を叶えるために、今！

真狩高校農業クラブ意見発表大会

平成26年5月30日（金）、真狩村公民館において「真狩高校農業クラブ校内意見発表大会」が開催されました。この大会は、事前に行われたクラス発表会で選出された12名の代表者（各学年の代表者4名）が発表し、優秀賞に輝いた4名は7月に開催される南北海道大会に進出するものです。

また、当部後志中部農業開発事業所では、平成20年度から「真狩高校と教育支援パートナーシップ」を締結し支援活動を進めており、本大会では、昨年に引き続き後志中部農業開発事業所長が審査員長として意見発表の審査を行いました。

心に残った発表を紹介します

「将来の夢」 1年生男子生徒（真狩村在住）

「俺は経理をするから、お前は畑を担当しろ。そして、兄弟で4代目の農園を会社にしよう。」この春、兄に言われた言葉。小さな頃から家を継ごうと思っていたので、兄の言葉には大賛成。しかし、現実には知らないことばかり。そこで、地元の真狩高校には「有機農業コース」があることを知り、ここでしっかり勉強し将来に役立てようとこの学校に進学を決めた。

家は、20haの畑に2.4haの田んぼがある。自分は、その中でも米作りと芋作りに興味がある。特に米は昔から、八十八の手間がかかると言われている。近年では、八十九の手間をかけたおぼろづきという品種もあるが、そこに兄弟の信頼関係を加えた九十の手間をかけた美味しい米を作り、いつかは真狩独自のブランドとして売り出したい。

そして、父を見習い畑の規模も大きくして、我が農園を今まで以上にいい農園にしていきたい。そのためには、学校で肥料のことや作物にあった管理の仕方を学んで、これからの農業を変えていきたいと思う。



40年前に活躍していた赤いトラクターと真狩高校と羊蹄山

北海道真狩高等学校は、昭和23年に開校し、昨年度は20年ぶりにコースの見直しを行い、従来の有機農業コースに加え野菜製菓コースが新設されました。真狩高校では、地域の特性や教育資源を活かし、魅力にあふれた特色豊かな高校を目指しています。また、現在は全校生徒93名のうち、61名が寄宿舎生活を送り、日々勉学に励んでいます。



真狩高校生が考案した「ゆり姉さん」。2013ゆるキャラグランプリでは、全国から1245エントリー中665位と奮闘しました。



「全体的にわかりやすい内容で、その光景が目には浮かぶようだ。いずれの発表も持ち味が発揮され、審査にとっても苦労した。これからも、ますますの活躍に期待している。」と、審査員長の講評でした。